

8月・9月に全国から声を挙げ、

75歳以上の高齢者医療費窓口負担2倍化の10月1日実施を中止させよう

2022年8月8日 日本高齢期運動連絡会代表委員会

コロナ感染第7波は毎日、爆発的な陽性者数になっています。そして、物価が急騰し、秋にも更なる値上げが見込まれている。こんな中でさらに負担が増える「75歳以上高齢者医療費窓口負担2倍化をするのか」、「せめて延期するべき」との声が高まっています。

この間行った「岸田さんこの声聞いてよアンケート」の結果は少ない収入の中で、生活費を切り詰めて暮らしている実態が明らかになっています。コロナ禍でただでさえ高齢者の受診控えが進んでいる中、窓口負担増はさらなる受診抑制をまねき、高齢者のいのち、健康、人権を脅かします。

南米チリではボリッチ大統領が「健康は財布で左右されぬ権利」といい、9月1日より公的医療制度の完全無料化がはじまります。私たちが決定しようとしている「日本高齢者人権宣言」は「高齢者は、到達可能な最高水準の身体的、精神的な健康を享受する権利を有する」としています。「2倍化中止」を迫る運動は「宣言」を私たちの暮らしに生かす運動でもあります。8月9日に全国から「中止、せめて延期せよ」の声を巻き起こす運動に取り組みましょう

この間の国会審議の中で、

- ① 2割負担導入による現役世代の負担軽減効果はわずか月額約30円であること、
- ② コロナ禍の今、精神的にも経済的にも疲弊している中での高齢者への負担増は受診控えを招くことが、各種調査で明らかになっているにも関わらず、政府は「健康悪化には結び付かない」としていること、
- ③ 国会審議を経ずに2割負担増の対象者を政令によって広げることができることなど、多くの問題点があきらかになっています。

そして、この間、中央と全国で共闘体制も築き、この1年間だけでもコロナ感染が猛威を振るう悪条件で81万筆が集まっています。一方、「当事者に知らされていない」「高齢者だけの問題に矮小化されている」などの弱点もあり、2倍化を中止させるまでの大きな声になっていません。しかし、2倍化の影響がたいへん深刻であることはこの間とりくんだ「岸田さんこの声聞いてよアンケート」の結果からも明らかです。宣伝行動をさらに大規模なものにして、「中止を」の世論を全国からわき起こしていきましょう。

<具体的行動提起>

- ① 引き続き署名行動に取り組みましょう 中央では9月21日を署名提出日にします。
- ② 街頭宣伝行動の規模を拡大しましょう。中央では9月は毎週宣伝行動にとりくみます。全国でも宣伝計画を組みましょう。SNS・ツイッターデモなど工夫し拡散しましょう。
■中央行動 8/25 お茶の水 17~18 9/4 週 (高円寺や阿佐ヶ谷)9/14 巣鴨 12-13 9/21 国会前宣伝 9/25 新宿 17-18
■宣伝物 中央社保協で「横断幕」(注文・送料のみ)・宣伝スポットを用意する
- ③ 国会議員要請 昨年法案を通じた情勢とコロナ・物価急騰で様変わり。「こんなときに実施するのか、中止を、せめて延期を」の声を地元議員に届けよう。
- ③ 10月1日は全国で、集会・デモを行いましょう。
■中央は午後(場所:) オンラインあり・集会・デモを計画中

以上

2022年8月4日

衆議院議員 様
参議院議員 様

中央社会保障推進協議会
全日本年金者組合中央本部
日本高齢期運動連絡会
医療団体連絡会議

物価急上昇・年金引き下げ・コロナ禍のなかで、高齢者の生活に追い打ちをかける

「75歳以上医療費窓口負担2割化」は中止、少なくとも延期してください

2022年10月から75歳以上医療費窓口負担2割化が強行されようとしています。実施されると2022年後半から年収200万円以上の人370万人(後期高齢者医療制度加入者の約20%)の窓口負担は、現状1割から2倍の2割となります。

国会審議の中で、

- ①2割負担導入による現役世代の負担軽減効果はわずか月額約30円であること、
- ②コロナ禍の今、精神的にも経済的にも疲弊している中での高齢者への負担増は受診控えを招くことが、各種調査で明らかになっているにも関わらず、政府は「健康悪化には結び付かない」としていること、
- ③国会審議を経ずに2割負担増の対象者を政令によって広げることができることなど、多くの問題点があきらかになりました。

長引くコロナ禍のもとで、国民生活は困難を極めています。とりわけ75歳以上の個人の収入額は平均で、166万円、中央値では130万円に過ぎず、200万円以下の方は58%におよびます。貯金が300万円以下の高齢者は三分の一で、17%の方は貯金を持っていません。そこに最近の物価急上昇が追い打ちをかけています。また、コロナ禍でただでさえ高齢者の受診控えが進んでいる中、窓口負担増はさらなる受診抑制をまねき、高齢者のいのち、健康、人権を脅かします。応能負担というならば、患者の窓口負担に求めるのではなく、富裕層や大企業の税・保険料負担に求めるべきです。

先の参議院選挙で有権者が最も重視した政策は「景気・雇用対策」「年金・介護・医療」との報道(時事通信)です。

先進国では、医療費の窓口負担は無料が当たり前です。75歳以上医療費窓口負担2割化は、高齢者の暮らしといのち、健康を守る上で大きな影響を及ぼします。さらには、高齢の親を支える子や孫といった現役世代の負担にもつながります。

以下の通り、75歳以上医療費窓口負担2割化の10月1日実施を中止するよう要請いたします。

<記>

高齢者のいのち・健康・人権を脅かす75歳以上医療費窓口負担2割化は中止ください。物価が急上昇し、コロナ感染も拡大している中ではすくなくとも延期をしてください。

◆事務局団体連絡先

〒164-0011 東京都中野区中央5-48-5 シャンボール504号

日本高齢期運動連絡会

TEL&FAX 03-3384-6654 nihonkouren@nifty.com